

日本学術会議 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同
老化分科会 第1回 議事録

日時：2024年3月28日（木）13:00～14:30（Zoom 会議）

出席（委員：敬称略）：

荒井秀典、葛谷雅文、八谷寛、西村ユミ、小熊祐子、西希代子、和氣純子、遠藤玉夫、鎌田実、山田あすか、野口春子、秋下雅弘、柏原直樹、田高悦子、飯島勝矢

欠席：佐藤佳代子

議 題

1. 各委員からの自己紹介

横断的な体制（1部～3部の会員）までの先生方に入ってください。

出席委員より氏名、所属、専門分野等について自己紹介があった。

- ・ 荒井秀典先生：国立長寿医療研究センター 理事長
- ・ 葛谷雅文先生：名鉄病院 （老年医学）
- ・ 八谷寛先生：名古屋大学 （公衆衛生学、生活習慣病予防）
- ・ 西村ユミ先生：東京都立大学 （看護学、哲学）
- ・ 小熊祐子先生：慶応義塾大学スポーツ医学研究センター （健康マネジメント、身体活動と健康、公衆衛生、超高齢者や地域フィールドのコホート研究や住民活動）
- ・ 西希代子先生：慶応義塾大学法科大学院 （民法：成年後見、虐待、高齢者の消費者被害などの高齢者法）
- ・ 和氣純子先生：東京都立大学人文社会学部 （高齢者福祉、相談援助や介護、地域共生社会）
- ・ 遠藤玉夫先生：東京都健康長寿医療センター研究所 （基礎老化研究）
- ・ 鎌田実先生：日本自動車研究所 （自動車、人間工学、福祉工学、自動運転など）
- ・ 山田あすか先生：東京電機大学 （建築、なかでも建築計画、特に医療福祉系）
- ・ 野口晴子先生：早稲田大学政治経済学部 （医療経済学、健康経営経済学、高齢者にかかわる政策評価、例として、後期高齢者における医療保険の窓口負担に対する評価）
- ・ 秋下雅弘先生：東京大学老年医学、4月から東京都健康長寿医療センター （老年医学）
- ・ 飯島勝矢先生・東京大学・高齢社会総合研究機構/未来ビジョン研究センター （老年医学、ジェロントロジー総合老年学）

※委員の追加（以下3名）は3月の幹事会で承認：

- ・ 柏原直樹先生：川崎医科大学・高齢者医療センター （腎臓・高血圧内科学）
- ・ 田高悦子先生：北海道大学医学部 （公衆衛生看護学、老年症候群の予防や緩和、高齢者の孤立・孤独）
- ・ 佐藤佳代子先生：東京女子医大(循環器内科学)

2. 委員長、副委員長、幹事の選出

- ・ 委員長には荒井秀典が選出された。
- ・ 副委員長・・・秋下、遠藤
- ・ 幹事・・・飯島

3. 老化分科会（第 26 期）の目指す方向性について

今期（第 26 期）の委員長を担当される荒井から以下の説明があった。

参考情報：＜分科会の設置提案書における趣旨＞

高齢化が進む中、社会の変化に応じた高齢者がどのように自律、自立した生活を送ることができるのかを、人文科学、経済学、法学、医学、工学分野の会員、連携会員により学際的に議論することにより、人生 100 年時代に対する対応策を議論する必要がある。したがって、臨床医学委員会及び健康・生活科学委員会の合同分科会として老化分科会を設置する。本分科会においては、高齢者の自律、自立をテーマとして、シンポジウムの開催、見解等の発出を行う。老化分科会から過去に発出された提言、見解がどのようなアウトカムにつながっているかについてのアンケート調査を実施する。

特に、「高齢者の自立・自律をテーマとしたシンポジウムを開催し、見解等の発出について分科会で審議する。」という方向性。

- 今までの経緯として、第 22 期、第 23 期、第 24 期、第 25 期の「提言および見解」を振り返った。
- 今までに見解や提言を出してきた流れはあるにしても、アウトカムの評価までは至っていない。それに対して、調査研究の形をどうにか取りたい。そのためにアンケート調査を実施する方向性も考えられ、今回の構成メンバーで戦略や方法を考える。
- 第 26 期のメインテーマは「高齢者の自立・自律・ウェルビーイング」に軸足を置く。
- 今回の第 26 期で、初めて横断的な体制（1 部～3 部の会員）が構築できたので、積極的にシンポジウム等も開催していきたい。（少なくとも 2 回を開催。合同シンポジウムの形も考慮）その際に、提言や見解の相手先（国行政：厚労省、文科省など）をシンポジストになって頂くことも工夫する。
第 1 回目のシンポジウムは今秋を予定
- これからの議論を踏まえ「見解」などを発出する予定

委員全員での意見交換を行った。（以下）

- 高齢者のウェルビーイング問題の視点から：
 - ・法学の視点から 第 1 部では高齢者に関する話題が取り上げられていない。
 - ・福祉分野：高齢者だけに限定した議論よりは、ジェンダー、多世代をイメージ。
 - ・経済学：高齢者だけに限定した議論よりは、ジェンダーや少子化での切り口も多い。
- 高齢者の移動問題、高齢者の免許返納における諸問題の視点から：
 - ・日本老年学会で報告書をリリース
 - ・自動運転自体がサポカーの機能の限界。モビリティサービス（例：オンデマンドの交通）の普及や活用。
 - ・人口減少下のステイナブルな社会構造やまちづくりをどうデザインするか。
- 建築や家の視点から：
 - ・地方の衰退を多角的にどう喰い留めることが出来るのか、大きな国土政策として捉えた議論が多い。（災害のリスクが高いエリアからのアプローチ、人口分布、医療福祉のサービスにおける移動コストが高くなる、など）
 - ・特に災害後の復興におけるまちづくりのイメージ
 - ・高齢者一人ひとりの高齢化と同時に、地域自体の高齢化（弱体化）も課題
- 年齢（65 歳以上）で区切るというよりは、「高齢者に多い問題を学際的に取り上げる」形で：
 - ・認知症関連
 - ・end of life に近い時期での意思決定
 - ・ネット社会における詐欺被害のさらなるリスクとその対応策（防御）

- ・ 地方における医療アクセス
- ・ 新しい時代に向けた自助・互助を基盤とする地域づくり
- ・ 行政施策が国民にどうプラスになっているのか
- ・ 高齢者の就労・労働など、いかに充実した日々を送り、生涯現役を実現できるのか

次回の会議：

- ・ 6 月後半以降で予定。
- ・ 第 1 回のシンポジウムも今秋を考慮

以上